

2022/8/22

大型ドローン導入

肥料散布を省力化

J Aレーク滋賀大津北宮農経済センターは22日、大津市南小松から北比良の5 haで、飼料用米の圃場(ほじょう)に農業用の大型ドローンを用いて肥料の散布を行いました。

大型ドローンはJ Aが新たに導入したもので、散布装置の容量は最大 40kg、全方向に吐出が可能。これまでのドローンの倍量を積載できる上、360度散布が可能であることから、作業時間も大幅に減らすことができます。

この日も、市の認定農業者である西村幸雄さんの圃場で、10kgの肥料を10 aあたり5分ほどで散布しました。

大津地区ではドローンで継続的に圃場を空撮し、画像を分析するセンシング技術を試験的に利用することで生育状況などを診断しています。その結果を生産者と確認し、J Aは生育が不十分な圃場にのみドローンで散布を行うことで散布量を節約し、肥料の高騰にも対応したいと考えています。

オペレーターを務めた同センターの田中章吾センター長は「肥料の高騰で生産者の負担が増大している。ドローンのセンシング技術などで試験と運用を同時に行いながら、肥料が必要な場所に必要な量を散布し、収量の向上につなげたい。少しでも生産者に貢献できるよう、スマート農業の推進・実践をしていきたい」と語ります。



肥料散布に大型ドローンで省力化
(8月22日、大津市北比良の南小松の圃場で)